

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	A-153	16-082 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
<p>The Role of Specific Alcohol-Related Problems in Predicting Depressive Experiences in a Cross-Sectional National Household Survey.</p> <p>国民代表集団における抑うつ症状に先立つアルコール関連問題に関する横断研究</p>		
執筆者		
McBride O, Cheng HG, Slade T, Lynskey MT.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2016 Nov;51(6):655-663. Epub 2016 Mar 7.		
キーワード		PMID
アルコール、抑うつ、横断研究		26956426
要 旨		
目的：		
アルコール摂取と抑うつ症状が併存するメカニズム解明のため、抑うつ症状の発症前に存在するアルコール関連問題について検討した。		
方法：		
1992年に実施された USA National Longitudinal Alcohol Epidemiologic Survey から、ランダム抽出された 92 家族 42,862 名（18 歳以上）を対象に、過去 1 年（PY）の抑うつ症状とこれ以前（PPY）のアルコール関連問題の存在について、面接による聞き取り調査を行った。アルコール関連問題は DSM-IV AUD 基準（31 項目）にアルコール欲求に関する 2 項目を加えた計 33 項目を、抑うつ症状は大うつ病診断基準 DSM-IV 19 項目を質問し、評価した。多変量ロジスティック回帰分析により、PPY でのアルコール関連問題の有無による PY での抑うつ症状ありのオッズ比（OR）および 95%信頼区間（95%CI）を算出した。また、抑うつ症状のみの群と抑うつおよびアルコール問題併存群の 2 群間の各抑うつ症状の頻度を比較した。		
結果：		
飲酒者 17,983 名のうち、抑うつ症状（PY）のあった者は 3,708 名であった。このうち、抑うつ症状のみは 578 名、アルコール関連問題併存者（PPY）は 945 名であった。アルコール関連問題のうち、アルコール耐性、意図した以上の飲酒、飲酒による重要な任務の放棄、二日酔い、身体的悪影響がありの群はなし群に比べ、抑うつ症状の OR（95%CI）がそれぞれ 1.3（1.1-1.5）、1.3（1.1-1.4）、3.4（1.8-6.4）、1.8（1.5-2.3）、1.5（1.2-1.8）と有意に高かった。抑うつ症状のみの群に比し、アルコール関連問題併存群で有意に多かった抑うつ症状は、疲れやすい（27.2% vs 34.2%）、集中できない（17.2% vs 22.5%）、死について考える（28.9% vs 36.2%）であった。		
結論：		
アルコール依存とそれに伴う負の連鎖が抑うつ症状に関連する可能性を示唆した。メカニズム解明には新たな研究デザインと詳細な個人データの収集が必要である。		